令和６年度 第８回長崎市文化振興審議会　 議事録

日　時 : 令和７年３月２７日（水）１０：００～１２：００

会　場 : 市役所７階　記者会見室兼中会議室

次　　第 :

１　市民文化活動振興プランについて

２　ながさきピース文化祭 2025 について

次第１　市民文化活動振興プランについて

【事務局（市民生活部）】資料１　市民芸術文化振興プラン－旧市民文化活動振興プラン第3次改訂版―（素案）へのパブリック・コメント【回答】について説明

【会長】
「パブコメに対して、このように市の方針です」という内容なので、我々が審議する内容ではないと思う。特に何か質問があればどうぞ。

【委員】
パブコメの件数が少ない。パブコメの告知がどのくらい伝わったのか疑問。
ただ、考えないといけないのは、市民からは審議会の委員は現場をよく知らない人が多いのではないかと思われている。気を付けなければいけないと思った。

【委員】
「子ども」という表現が「子供」と「子ども」が混在しているので、引用部分以外は統一すべき。

【会長】
パブコメに対しては以上だが、プランそのものに対して意見交換していきたい。
今回のプランで大きく変わったのは「芸術」のキーワードが明確になった。
プランとアクションプランが一体になった、そして、これらが第五次総合計画の中で動いていくということ。そういう流れの中で、プランはどのように活用され、どのように私たちの芸術文化の振興にどのように寄与するのか少しお話しいただきたい。

【事務局（市民生活部）】
今の発言の中に「指針」という言葉があったが、まさに振興プランというこれまで作ってきたものは、その指針という形で、それを目指してということでやってきたが、今回、アクションプランの要素をつけ加えようということで、作らせていただいた。
それで、まさにこの出来上がったプランが出来上がっただけで、よく言う「絵に描いた餅」になるというのは一番やってはいけないということは認識しており、しっかりアクションをしてやったことの成果というのを「見える化」するというのが必要だと考えている。
一方で芸術文化における成果というのは、一朝一夕で目に見えて測れるものじゃないとい考えている。しかし、毎年度事業というのを一つ一つやっていっているという状況なので、それをしっかり評価・分析・検証を行い、翌年度のアクションに活かしていこうと考えている。例えば今年は、6月ぐらいを目途に一旦昨年度に行ったアクション。これは今回作った

プランに基づいて行った事業ではないが、我々が実際に行った事業というものを、このプランと照らし合わせながら振り返りというのを行い、どのような点が良くて、どういう点が不十分だったかというところを皆さんと一緒に、検証させていただきたいと考えている。
　その後で、今度は翌年度の予算組み、事業の組み立てというのが秋頃に始まるので、その前に、検証を活かして、適切にフィードバックをして、不十分な点をどう埋めていくのか、良かった点はどう延ばしていくのかというところを、全てを行えるほどの潤沢な予算は持ち合わせていないが、その中でも、しっかり効果的な事業になるようにフィードバックをするような機会をこの審議会の中でやらせていただきたい。

【会長】
　潤沢という言葉はずいぶん遠いところにある言葉のようだ。
　こういうプランの検証等について美術館では苦労されていると思うが、プランの回し方について何か意見はあるか。

【委員】
　プランを作って、実行して頂くのは長崎市の皆様で、私たちはそれを期待している。
プランがあったうえで、それを指針としながらどう計画していくかが大事。その辺の実行計画とどう紐づいていくのかが大切。
　いきなりですが、注釈のところ。2 ページ目の下から 2 行目に「文化活動だと範囲が広いため」と記載されているが、範囲が広いから小さくするという表現より、「明確化するため」といったように、次ページの芸術文化とは何かと記載している部分と繋がるような表現にすべき。

【会長】
　確かに、範囲の部分はご指摘の通り。
　計画についてはどのように考えているか。

【事務局（市民生活部）】
　具体的にアクションプランの策定は今の時点では考えていない。
　少なくとも、振興プランの方向性に基づいて、しっかり事業を組み立てていきたい。
　具体的に言うと、基本方向として「創る」「支える」という大きな柱があり、そこに「芸術文化に触れる機会の創出」など 5 つの柱をつくり、それに基づいて、事業を進めていく。前年度の事業を検証し、翌年度に繋げていくという方法で事業を進めていく。

【会長】
　計画は無いというお話だったが、何かしら必要なのでは。

全ては無理でも、「このようにやっていきます」というように、良いアイディアはないか審議会に投げていただいてもいい。

【事務局（市民生活部）】
説明の不足があった。
先ほど申し上げたとおり、秋ぐらいに、翌年度の事業内容をお示ししたうえでお話ししたいと思っている。

【委員】
まさに今年がピース文化祭の年、振興プランの基本の理念は「子どもから大人まで誰もが～」という部分がピース文化祭の中でどのように取り組んでいくかは紐づけられると思う。
特に振興プラン1年目に、ピース文化祭がタイミングよくあるのだから、そこで、文化祭において、どのように取り組むか計画立てて、それを振り返ることが必要ではないか。

【事務局（市民生活部）】
先ほど 6 月を目途に昨年度の振り返りを行うとお伝えしたが、それと同時に今年度の取組みもお示しして、皆様のご意見をいただきたい。

【会長】
新しい振興プランがあり、ピース文化祭があり、絶好の機会となる。できる限り、ピース文化祭の中にこの精神を反映させて欲しい。

【事務局（市民生活部）】
私たち市の方と、審議会の皆様のイメージを擦り合わせ、共通認識を持った方がいいと感じたので、先ほどからの「計画」というイメージについてお話ししたい。
プラン自体は 16 ページ以降の施策の方向というように記載されているが、大きな方向性があり、それを体系づけて、施策の方向性を示しているのが振興プランというように認識している。中にはいくつか取組事例を載せているが、これが方向性に基づいたいわゆる「事業」（手段）というところになる。
先ほどから出ている「計画」は単年度ごとの計画ということだと思うが、プランで掲げた方向に沿って、どういった事業をやっていくのかというところになると思う、それが十分なのかどうか見極めながら、次の年度に反映させていく、いわゆる PDCA サイクルを回していくということになる。
例えば令和 6 年度に行った事業が 10 本あったとして、それを振興プランに当てはめて柱ごとに一覧にして、効果が出ているのか、事業は足りているのか「見える化」できる。これを令和 7 年度の事業を含めて「見える化」して、どうなのか検証し、それでは令和 8 年度に

向けて、どういった事業が必要か検討する流れかと思う。
　先ほどから言われている「計画」というのは、前年度のトータルの事業、次の事業どういった事業を行っていくのか、どういった事業が必要なのか、そこの部分が「計画」に類するものだと思っている。
　色々ご意見をいただきながらになるかとは思うが、一つのたたき台として、実効性のある進め方は新年度にまた議論させていただければと思う。

【会長】
　次年度少し話す場があると良い。
　現場の理想と現実の乖離は大きい。それを具現していくためにはどうしたらいいかが、文化振興の仕事。

【委員】
　芸術文化の触れる機会の創出のところでは「子どもから大人まで、障害の有無や経済的な状況または居住する地域等に関わらず、市民の誰もが～」と記載されているが、芸術文化活動を行う機会の創出のところでは「担い手」という記載しかない。
　ここにも、障害があるかたも発表の機会があるというのは大切なところ。長崎市はしっかり取り組んでいるので、ここにもきちんと記載してはどうか。

【事務局（市民生活部）】
　おっしゃる通り、両方に記載すべきと考える。

【委員】
　ピース文化祭の年は、事業もたくさんあり、通常事業も拡大していると思う。
　次の年になると、令和６年度の規模に戻るとなると、ピース文化祭をやる意義は薄れる。
　まさに文化祭をレガシーとして、長崎市の文化予算が少ないということもあるので、グレードアップしていくという形になっていただきたい。
　その点でも、計画を作っていくというのは大事だと感じた。

【委員】
　ｐ２２に「新たな文化施設整備に向けた検討」があるが、現在の進捗はどうなっているか。

【事務局（市民生活部）】
　大きな柱の一つに「新たな文化施設の整備」を掲げているが、現在の状況としては、皆様にこれまでもご説明した通り、市役所本館跡地に建設するということは決まっている。
　さらに、その土地を文化施設単体で整備するということではなく、周辺の駐車場、公園も

含めて一体的に整備をしたい。そして、そこに民間の力をいただきながら、長崎にとって効果的な土地となるようにしたい。今年度いっぱいサウンディング調査を行い、民間からの支援をいただけるのかの調査を進めている。できるだけ早いタイミングで皆様にどのような意見が出たのか等お示ししたい。そして、それに対して皆様からご意見をいただきたい。

【会長】
　差し替え前の素案には市長メッセージの記載があったが、完成版に市長メッセージは載るか。
　他都市のものをいくつか見たが、長崎市のものは、あまりにも優等生の記載だったため、もっと意気込みが伝わる記載にして欲しい。
　また、今後プランの概要版のようなものは作るのか。

【事務局（市民生活部）】
　今のところ着手できていない。おっしゃる通り、概要版は必要だと思うので、第１回で作成したプランの際の概要版を参考に作成していきたい。

【委員】
　市長のあいさつのところで、「日本で唯一の開港の窓口～」という記載があったが、実は薩摩藩が韓国と交流があった。幕府公認のという記載があればいいのかと思うが、少し気になった。

【事務局（市民生活部）】
　確認し、市長あいさつの表現として適切なのか最終的に調整し掲載したい。

次第２　ながさきピース文化祭 2025 について

【事務局（市民生活部）】資料２　ながさきピース文化祭 2025 について説明

【会長】
　２点ほど気になった点がある。
　１点目、令和６年度色々周知し、一定程度、皆さんに伝わったとあるが、実感がない。私は県の事業に関わっているが、実感がない。建物の中にいる感覚と、まちを歩く時の感覚にズレがあるのではないか。
　もう１点、まずは９月から 11 月に中身が充実したものになればと思うが、それをやりながら、その後どういうように繋いでいくかということ。イベントの中にそういった要素をいれながらやっていくか、今後の説明で見えてくる必要がある。

【委員】
　会長がおっしゃったとおり、認知の実感について、個人で活動をしている際に周りのまちなかの人は多少ピンクのステッカーを見る機会はあるようだが、実家は香焼で、実家近辺では全く認知されていない。まちなかだけではなく、長崎市の各地域で認知が平等にできていないのではないか。
　公式のインスタグラムで、平戸のインスタグラムをよく見るが、市民の人が「自分たちが関わって盛り上げて行くんだ」ということが、とてもよくわかるものになっている。イベント自体は小さいようだが、楽しそうで、応援できるなというインスタグラムの作りになっている。
　今検索してみたが、これだけ勝手に情報が入ってくる時代で、なかなかピース文化祭の公式インスタグラムがあるのか分からない。インスタグラム世代は多いと思うので、そこに引っかかれるような周知の方法があるのではないかと思う。

【会長】
　確かに「楽しそうに」というフレーズがあったが、楽しそうなのが伝わっていないのかもしれない。

【事務局（市民生活部）】
　周知に関して実感がないという話だったが、私たちも市内のイベントにブースを出させていただいて、そこに来ていただいた方々とお話をするという機会が今年度複数回あった。そこでは「知っている」という反応をいただいた。私たちが出会った人たちと、各地域のお住まいの人々広く同じ分量で出来ているかというのは難しいところだが、「一定数」と発言させていただいた。

インスタグラムについて、市の実行委員会の方では新たにアカウントを作ってもフォロワーを集めるのに力が要り、フォロワーが集まらない現状があると、専門の方々から聞いたため、開設していない。
県の実行委員会が開設している公式のインスタグラムがあるが、おっしゃる通り検索しても出てこない。そこは県の実行委員会の方には再三お願いしている。アカウントへの行き方としては、ピース文化祭を検索すると壱岐の公式インスタグラムが出てくるので、そこのフォロワーから辿っていくという現状。
認知を平等にというところに関しては、色々な媒体を使って広報をしているところだが、ご意見いただいたように、平等ではない、知らない人もいるというところで、今後も引き続き周知を頑張っていきたい。

【会長】
関心がある人は声をかけてくれる、問題は、声をかけてくれない人、そこにも来てくれない人にどう届けるかを考えなければいけない。
例えば、ハピネスアリーナでルードファクトリーの皆さんが開催した 4000 人規模の大きなイベントがあったが、ピースの職員はそこに行ったのか。
長崎市でやっている大きなイベントにピースの職員は行っていない、でも自分たちは足を運んでいるという発言は、私なら反論してしまう。
県下全部は無理だろうが、長崎市で行われるイベントについては、積極的にみんなで出かけていくという雰囲気がいい。更にやっていきましょうという雰囲気が良い。

【委員】
文化振興プランの 10 ページにある市民意識調査にもあるように、長崎県は全国の中でも島があり、長崎市は縦長、その中で核家族、高齢者の家族のみという方が多くある中で、いかに認知させていくのかというのは非常に難しい。市民意識調査の結果にもあるように、文化施策に対する満足度について「普通」と答えている方は「どっちでもよい」「興味が無い」人が多いと思う。それだけ日々の生活に追われている、文化に意識を向けるような余裕がない、そういった方もいると思う。
そういった中で、ピース文化祭を認知させていくかは大変だと思う。
文化に対する満足度について、はっきりしない人が多いのはそういうこと。いかに市が推進していくか、日々考えていかなければいけない。

【委員】
人が集まるところで宣伝するというのも一つの手だと思う。
また、各会場近辺には色々なお店もあると思うが、まちぐるみでポスターやのぼり等を設置するのも手段であるが、今は市役所以外でどこに設置されているのか。

小さなお店や地域の人たちを使って、どこに行ってもピースのポスター・チラシがあるという状態や、駅から出て大きな会場までの道なりにポスターがずっと掲示してあるような状態を作れば、長崎市民だけでなく、外から来た人にも PR できる。

可能なら各会場の近辺の小さなお店にもポスターがあるような周知をして欲しい。足を運ばないといけないといけないかもしれないが、自治会や大きな会社が集まる機会があればその時にでも協力をお願いできれば。

歩いていたら目につくという状態が良いのかなと思う。

【会長】

おっしゃる通り、どうやって賑わいを作って周知していくか。

松本で小沢フェスティバルがある期間などは、まちが真っ青になる。まち全体がそういう色に染まっている。

【委員】

ポスターを自分のところで大きなものを貼っている。大きなものを貼ってくれるところは今少ないと思うので、ステッカーのような小さいもので、そこから、情報に繋がれるような手軽なものがあっていい。SNS の運営は大変だと思うし、フォロワーが伸びるかという問題もあると思うが、作ったほうがいいのではないか。

【委員】

プレイベントで神楽の上演があったが、非常に良かった。ただ、開場が吹きさらしのところで、場所が勿体なかった。

【事務局（市民生活部）】

あれは県の生涯学習課が実施したものになる。

【会長】

せっかくのイベントはどこがしても問題ない。もっと緊密に連携していかないといけない。

【委員】

会長がおっしゃった通り、ハピネスアリーナでのイベント等、いろんなイベントに足を運んで視察された方がいいと思う。どういうようにしたら人が集まるか考えていただけたらいい。

私たちは踊り等の発表会をやっているが、いろんなことを考えて、計画して行っている。いかに観客の人の文化に対する向上心を高めるかを考えながらもやっている。

ただ、市のイベントに人が来ないと言うのではなく、どうしたら人が集まるのか考えていただきたい。新しい会館を立てるにしても、人が集まるような会館を立てていただきたい。ピース文化祭もインスタグラム等は高齢の方は分かりにくいので、のぼりやポスターで周知していくのも大切だと思う。

【委員】

プレイベントについて、人が多く集まり盛り上がったと思っていると思うが、実際には秋山さんのイベントの時が最高潮で、その後の私たちのイベントの時には人は殆どいなくなっていて、少ししか人がいなかった。秋山さんの人気で単に人が集まっていただけ。

それでも人が集まっていたのだから、その場でピース文化祭の PR をしなければいけないが、これに対する告知がされていたのか疑問。

見ている人は何のためのイベントか分からなかった人が多かったのではないか。

また、日程はなぜこの日にしたのか。同じ日に国際文化協会が行う「文化のつどい」を行っていた。

長崎には折角たくさんの文化団体があるのに、文化のつどいに出ていたために、ピースのプレイベントに出られなかった団体が多くあった。

文化振興課長が国際文化協会の専務理事なのに、なぜ、連携が取れなかったのか。せっかく相乗効果が狙えたのに、勿体ないと感じた。

広報に関して、今から取り組んでいきますというが、今からでは遅い。

県にも言えることだが、国民文化祭を誘致したその時から広報に取り組んでいかなければいけないとずっと言ってきた。結局そこら辺はなされず、開催されることは誰も知らない。

今年に入ってからやっと色々なところにピンクのチラシを見かけるようになった。

文化に携わっている人たちは知っているが、その人たちだけのものになってしまっては、「文化をみんなに」というスローガンが果たされない。

今回のピース文化祭は天皇陛下が開会式に出席される国には4つしかない事業の一つ。

同じような「がんばらんば国体」の時の盛り上がりと比べてどうなのだろうか。天皇陛下が来られる事業にも関わらず、あまりその辺の認識が弱い気がする。これは国民や市民の問題というよりは、発信する側の意気込みの問題。

広報のところにテレビも入っているが、「週刊あじさい」や「市っトクながさき」など行政が持っているテレビだけでは全然広がらない。本来なら、民間のテレビ局がニュースの中で、特集組んでなどの広報が必要。スタジアムシティの開業のときどれだけテレビで特集していたことか。それはお金が関係しているかもしれないが、テレビがピース文化祭について報道しなさすぎる。それだけ働きかけが必要。

自治会のネットワーク活用も大事。自治会の掲示板にポスターは貼っているのか。多くの人の目に触れてもらうことで関心を持ってもらうことが大事。「文化をみんなに」と言うからには、ここに集まっているような文化団体の音楽や舞踊、演劇等だけではなく、サブカル

チャー的な文化もある。それをやっていない人は殆どいないと思う、特に若い人には。本当はそういう人たちにも参加してもらいたい。県の企画会議でも発言したが、結局そこを取り込めていないので、そこら辺は無関心。そこら辺をどう取り込むかも大事。
今度、県主催事業として、「ダンス＆ダンス」というものをハピネスアリーナで実施するが、私も関わっている。
実際に企画するのは若い人たちにやってもらおうということで、若い人を集めて、会議を何回か開催して作りあげてきた。
さっきの振興プランへのパブリックコメントにもあったが、現役で芸術文化に関わっている人たちが、どんどん次の担い手として、行政の文化事業に携わっていく、担い手となっていくように、単に演じるだけではなく、運営をしていくことを学んでいかないと、人は育って行かない。そこで、この企画にはそういう人たちをいれて考えさせようということをやっていっている。これをやったことによって、それから先の長崎県における芸術文化の担い手を育成していくという目的で、始めた。やはりピース文化祭にはそういうものが必要。そう考えた時に市の主催事業はあるのか。

【事務局（市民生活部）】
パンフレット見開き左ページの3番と裏表紙の29番が市の実行委員会が主体となって行う事業。

【委員】
これは委員を公募するのか。

【事務局（市民生活部）】
これは事務局で行う。

【委員】
アニメとかは若い人たちが主体となってするようなものなので、若い人を入れて進めればいいと思う。県は 9 つ事業があるのに対し少ないのではないか。県から情報が下りてくるのが遅かったからということもあると思うが、それにしても、文化祭が行われることは分かっていたのだから、もう少し何か文化祭を通して、長崎市の文化に対する将来のことを考えてこういうものを考えようということを考えて欲しかった。せっかくのチャンスなのだから。何もかも取り組みが遅かったが、一応始まる前なので、今からでもそこはネジを巻きなおして、やっていただきたい。
最後に、NHK の大河ドラマに「べらぼう」というのがやっているが、前回の放送はネットでも盛り上がった。内容はというと、舞台は吉原。人が集まらない、もっと人を集めたいということで、祭りを企画するが、1 か月半の祭りを行う。そこは勢力が 2 つに分かれてい

て、いがみ合っている。バトルでやり合うが、それがウケて盛り上がった。最後にはやり合っていた同士が手を取り合って、まち全体が一つになって盛り上がり、祭りが大成功し、吉原が盛り上がる。その様子を描いた冊子がバカ売れする。そういうところはまさにピース文化祭が目指すところ。ピース文化祭を契機に人が集まってくる、盛り上がる、そこで売るものが売れていく、経済効果が高まる。今の長崎に必要な典型だと思う。おくんちやランタンがあり、そこに人が集まってきているが、そこがうまく活かせているのだろうかという気がする。ピース文化祭も長崎を盛り上げるいい機会。これをどう盛り上げて行くのか、活かしていくのかはこれからの長崎市と我々文化団体の取り組み次第と思っている。

一つ目は広報。どういう風に知らしめていくのか。既存ルートだけではなく、今まで行っていなかったところに、情報が行き届いていないところに行き届かせて、長崎市民みんなが「ピース文化祭に関わるんだ」というところまで盛り上げることができたら、やる甲斐もある。一緒に頑張っていきたい。

【会長】

2 年前は石川・金沢で豪華絢爛・野村萬斎、1 年前は「清流の国ぎふ」。岐阜は 1 か月半、42 市町で。長崎は 21 の市町、2 か月半で 30 いくつかの事業が長崎市であるという状況ですが、多いか少ないかは分からないが、来年は高知。負けないようにやっていけたらと思う。

9 月 14 日の開会式の準備が進んでいる。プログラムは最初の 20 分がプロローグ、次が式典、そしてフェスティバルがあって、エピローグ。最初のプロローグでは長崎を 5 ブロックに分かれてそれぞれ特徴のある曲を選んだ。長崎市は 2 つ何が選ばれたと思うか。

佐世保は「美しき天然」「西海讃歌」。長崎市は「精霊流し」と最後は「長崎の鐘」。エピローグはダンスを中心に長崎の歴史を振り返る時間。

11 月の終わりには長崎市で閉会式があると思う。長崎市にしか出せないメッセージはやはり平和。9月には原爆資料館で平和の講演会等がある。ただ、この 2 か月半の中で長崎の大事なメッセージはやはりピース。情報共有しながら、一緒にやっていきたい。

他に何かあるか。

【委員】

2 月議会で新たな文化施設について森議員から質問が出ていたが、議会でどのような話になったのか。

【事務局（市民生活部）】

森議員からは「サウンディングの状況はどうなっているか」「今後どう進めていくのか」という大きく 2 点の質問があった、回答としては先ほど委員の質問に回答したようなことを回答させていただいた。いずれにしても今行っているサウンディングでいただいた意見について、検証して速やかにまとめ、しかるべきタイミングで皆様にお示しするという形に

なる。スケジュールについての言及もあったが、今のところ明確に出せる状況にないため、そこも、出せるタイミングで情報共有したいと考えている。

【会長】
私も議会で 3 人の関連のところは聴いていた。決して我々文化振興審議会と市の皆さんは対峙しているわけではない。一緒にやっている。意見は戦わせているが。
森議員が「審議会は不信感がある」と発言していましたが、不信に思っているわけではなく心配している。可能な範囲で説明して頂くというのがいい。
それでは事務局にお返しする。